授業科目	道徳教育の理論と実践					単位	2
履　　修	選択	関連資格	養教一種免			ナンバリング	0
開講年次	2	開講時期	前期	該当DP	DP1-1 DP2-1 DP3-1 DP5-1		
担当教員	杉谷　修一						
授業概要	人間社会にとって普遍的かつ本質的な課題である道徳は、学校現場において重要な教育実践として要請されている。この授業では道徳とは何かという本質的な問いに始まり、現代社会における道徳的課題を知ることから始める。次に学校教育における道徳教育の歴史的経緯と現時点での位置づけを理解する。さらに道徳教育の実践的な指導の在り方を主として授業実践の観点から身につけることを最終的な目標とする。道徳教育についての学習は学生自身が道徳的課題について深く思いをめぐらせることを基盤とし、その上で学習指導案の作成や発問・指示・評価など具体的な方法と結びつけることが求められている。この授業は遠隔授業として実施する。						
学生が達成すべき行動目標	(1) 人間社会にとって道徳がもつ意味について理解できる。 (2) 道徳教育の歴史及び現代社会における課題について理解できる。 (3) 発達段階に応じて道徳性のあり方をとらえ、適切な指導と結びつけることができる。 (4) 学校教育における道徳教育の位置づけを理解することができる(教育法規、学習指導要領、個別の学校教育計画などの関連性の理解を含む)。 (5) 道徳科の授業の基礎的理解に基づく授業の実践力を身につける(指導方法、教材研究、評価方法などを含む)・ (6) 道徳科の授業について学習指導案を作成することができる。 (7) 模擬授業など授業実践を通じた授業改善をPDCAの観点から理解することができる。 (8) 授業のねらい・対象特性・教材の相互関連から適切な教育方法を設定する具体的手順について、様々な授業実践例を参照しながら理解することができる。 (9) 身近な生活や経験から道徳教育のテーマを導出し、授業研究と結びつけることができる。 (10)学習指導案づくりの基本を知り、各自が設定したテーマに基づいた学習指導案を作成することができる。 (11)自分の学習指導案に従い、模擬授業を実践することができる(模擬授業担当者のみ)。 (12)模擬授業を題材として討論を通じて、道徳教育への認識及び授業作り・実践への理解を深める。						

達成度評価

評価と評価割合／評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	70	0	30	0	100	
知識・理解 (DP1-1)	0		40		30		70	
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)	0							
思考・判断 (DP2-2)			10				10	
関心・意欲 (DP3-1)	0			0				
関心・意欲 (DP3-2)			10				10	
態度(DP4-1)								
態度(DP4-2)								
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)	0			0				
技能・表現 (DP5-2)			10				10	
技能・表現 (DP5-3)								

具体的な達成の目安

理想的レベル	標準的なレベル

（1）道徳と実践にかかわる課題を授業の中に位置づけることができる。 （2）学習指導要領における道徳教育の位置づけを説明できる。 （3）学習指導案の構造を理解し、学習指導案作成に効果的に活用することができる。 （4）道徳の授業実践にかかわる多面的な知識を習得し、模擬授業の形で効果的に実践できる。	（1）道徳と実践にかかわる基本的課題を理解できる。 （2）学習指導要領における道徳教育の位置づけを説明できる。 （3）学習指導案の基本的な構造を理解し、学習指導案作成に活用することができる。 （4）道徳の授業実践にかかわる基本的な知識を習得し、模擬授業の形で実践できる。

授業計画

進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	テーマ：道徳とは何か 正義の相対性と絶対性、法と道徳の違いについて考察し、道徳のあり方を多面的に理解する。	講義	今回の課題。	30
2	テーマ：道徳性の発達 子どもの道徳性の発達に関する主要な理論について理解する。	講義	前回の復習と今回の課題。	60
3	テーマ：学習指導要領の変遷と道徳教育 日本の学習指導要領の変遷の中で、道徳教育の位置付けや意義がどのように変化したかを理解する。	講義	前回の復習と今回の課題。	60
4	テーマ：現行学習指導要領における道徳教育 新しい学習指導要領における道徳教育のポイントを理解する。	講義	前回の復習と今回の課題。	60
5	テーマ：授業としての道徳教育（1） 道徳教育の授業の実際について動画等を通じて学習する。	講義	前回の復習と今回の課題。	60
6	テーマ：授業としての道徳教育（2） 学習指導案の構造を概観し、道徳教育の授業を組み立てる基礎を学ぶ	講義	前回の復習と今回の課題。	60
7	テーマ：授業としての道徳教育（3） 読み物教材、実物教材、データ活用など多様な教材の特徴を知り、教材研究の基礎を学ぶ。	講義	前回の復習と今回の課題。	60
8	テーマ：授業としての道徳教育（4） 授業の主題・児童生徒のあり方・教材の特質を有機的に結びつけるための基礎を学ぶ。	講義	前回の復習と今回の課題。	60
9	テーマ：授業としての道徳教育（5） 発声、発問、指示、板書など教師としての基本的な授業実践の技術の基礎を学ぶ。	講義	前回の復習と今回の課題。	60
10	テーマ：授業としての道徳教育（6） 道徳の授業設計の手順は単線的ではなく、常に主題のあり方と関連しながら試行錯誤することについて具体的に理解する。	講義	前回の復習と今回の課題。	60
11	テーマ：道徳教育における学習評価 道徳における学習評価の特徴と注意点について学び、具体的評価方法や基準について理解する。	講義	前回の復習と今回の課題。	60
12	テーマ：学習指導案をつくってみよう（1） これまで学んだことを活用して、各自の選んだ道徳的価値を主題とする指導案を作成する。	講義	学習指導案の作成を行う。	60
13	テーマ：学習指導案をつくってみよう（2） 前回作成した学習指導案をてがかりに、問題を確認し改善する。	講義	学習指導案の作成を行う。	60
14	完成した学習指導案を発表し、よかった点と改善すべき点を確認する。	講義	学習指導要領の作成と提出（最終課題）	60

15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				

理解に必要な予備知識や技能	これまでの学校や家庭でのしつけ、教育経験や公共の場における規範状況などを手がかりに授業へと導入する。日本の教育における道徳教育の位置づけを理解する際には、教育法規や学習指導要領の文言をある程度具体的イメージとしてとらえる力が必要となる。また、学習指導案の作成においては、ねらいを教材や方法の形で具体化する発想力が大切となる。
テキスト	文部科学省『小学校学習指導要領解説解説 特別の教科道徳編 平成 29 年告示』 文部科学省『中学校学習指導要領解説解説 特別の教科道徳編 平成 29 年告示』 ※文部科学省 HP からダウンロードすることもできるが、冊子で活用する方が効率的。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	参考図書については授業中に指示する。実際に教育現場で用いられている学習指導案、学習指導要領解説（特別の教科 道徳編 平成 29 年 7 月）、その他パワーポイント資料を配付・提示する。また各自治体の学習指導案データベースや文科省の関連資料も紹介する。 ※文部科学省「道徳教育アーカイブ」には動画資料も多い。授業においても適宜参照する。
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	まずは道徳の問題を自分の課題としてとらえ直す必要がある。道徳のテーマについて考察を深めずに、借り物のテーマで道徳の授業を作ってはならない。初めは未熟であっても、自分の経験・思考・教育的ねらいを通して学習指導案を作ることで、実践としての道徳教育に関する力量を高めて欲しい。 学習指導案作成にあたっては自分が子どもたちに伝えたいメッセージを軸に自由な発想で授業を組み立ててみよう。
達成度評価に関するコメント	授業において指示する課題（30 点） 最終的に提出する学習指導案（70 点） ※各自の創意工夫や児童生徒を想定した配慮などについて特に評価する。